

大学院生紹介

私は、現在石垣島にある八重山病院に勤務しており、平成 25 年度より前期課程の島しょ保健看護領域で学んでいます。

八重山諸島の中核病院である八重山病院は、新生児から老人、また急性期から慢性期、終末期にある様々な状態の患者さんを対象に看護をします。それゆえに、私たち看護師は幅広い知識や技術を求められます。

そのため、島しょ看護についての学問を開いている、本大学に入学することでさらに患者さんに提供できるケアの幅が広がられるのではないかと思います、上司の勧めもあり受験することにしました。

本大学では遠隔通信 (ICT) を利用した講義が行われているので、離島の病院に勤務しながら講義を受けることができ、移動にかかる、時間や経済的な負担が軽減します。

集中講義や演習では、大学に登校し先生方や、大学院で学ぶ仲間と会う事で、さらに知識を深めることができるとともに、学ぶ楽しさや悩みを共有できるのではないかと思います。

また、本大学では社会人のための長期履修制度があり、講義は夜間や土日に行われているため働きながら学ぶことができます。働きながら疑問に思ったことを、理論的に解決することができるように、講義で学んだことを実践で活用することができ、今後より良いケアを患者さんに提供できるのではないかと思います。



博士前期課程

島しょ保健看護領域
(包括的保健看護)
砂川 はつき
すながわ

私は大学卒業後、9年間の臨床経験を経て本学に助手として着任いたしました。仕事をしていく中で教育や研究に対する基礎知識の不足を痛感する場面を多く体験しました。それがきっかけとなり教育方法や研究能力を養うことの必要性を痛感し、博士前期課程に入学しました。前期課程では、課題を見つけ、それを明らかにしていくために必要な基本的な研究のプロセスについて学ぶことができました。自分の研究疑問を明らかにしていく過程を通して、研究のおもしろさと奥深さにふれ、さらに学びを深めたいという意欲が出てきました。そのような時に教員研修に参加する機会をいただき、ハワイにおける看護教育の実際をみることができました。目標に向かって主体的に学ぶ学生の後ろには生涯学習者としてのモデルを自ら示している教員の存在があることに気づかされ、博士後期課程への進学を決意いたしました。

後期課程では、専門職として学び続けるモデルとなれるよう、また子育てで支援に寄与できるような課題に取り組んでいきたいと考えています。

仕事と親業、学業との両立に不安も多くありますが、何故学ぶのかを自分に問いながら初心を忘れることなく、挑戦する者に道は開かれることを信じ、仲間と学び合い、自己研鑽に努めていきたいと思っています。



博士後期課程

母子保健看護
西平 朋子
にしひら ともこ

沖縄県立看護大学大学院年度別入学生状況

		出身		性別		入学者計
		県内	県外	女性	男性	
平成16年4月入学生 (1期生)	博士前期	5	1	5	1	6
	博士後期	2	0	1	1	2
平成17年 (2期生)	博士前期	5	4	8	1	9
	博士後期	0	2	2	0	2
平成18年 (3期生)	博士前期	6	0	6	0	6
	博士後期	1	1	2	0	2
平成19年 (4期生)	博士前期	7	0	6	1	7
	博士後期	0	2	2	0	2
平成20年 (5期生)	博士前期	5	2	7	0	7
	博士後期	2	1	3	0	3
平成21年 (6期生)	博士前期	8	0	7	1	8
	博士後期	4	0	3	1	4
平成22年 (7期生)	博士前期	9	0	9	0	9
	博士後期	3	0	3	0	3
平成23年 (8期生)	博士前期	6	0	6	0	6
	博士後期	1	1	1	1	2
平成24年 (9期生)	博士前期	8	0	8	0	8
	博士後期	1	0	1	0	1
平成25年 (10期生)	博士前期	9	0	9	0	9
	博士後期	1	1	2	0	2
合計	博士前期	68	7	71	4	75
	博士後期	15	8	20	3	23

